



# るうてる

2015年  
1月  
No.812

■発行所 ■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>  
■E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人 ■ 安井宜生 [koho06@jelc.or.jp](mailto:koho06@jelc.or.jp)  
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社  
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)  
■振替口座 ■ 00190-7-1734

## 説教「希望」

日本福音ルーテル水俣教会・八代教会牧師 吉合正典

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。コリントの信徒への手紙一 13章13節

定年を控えて振り返ると、私は高校3年生の春に洗礼を受けました。家庭の事情により心の中に空しさがあり、イエス・キリストに従う生き方に希望を見出したからです。洗礼を受けた頃は昂揚感に包まれ、楽しかったのですが、年を取るにつれ、別の空洞があるのに気づきました。早い話が悪いと人を傷つけて、その事に気づかない浅はかさ。想うべきでない事を喜んで、為すべきでない事は、これを喜んで為す卑しさ、愚かさ。こ

のよな心の闇が徐々に深くなっていくのです。教会の1日神学校で、ボンヘッファーの獄中詩を学びました。彼は「私は何者か」と問い、次のように語ります。「人は、私が平然と微笑み、誇らしげに不幸の日々を耐えていると云う。しかし、私は籠の中の鳥のように落ち着きをなくし・・・些細な侮辱にも怒りのために体を震わせ、祈りにも思索にも疲れ果てる」。そして「偽善者」と「哀れな弱虫」のどちらなのかと、自問自答を繰り返し、最後に「わたしは何者であるにせよ、最後には処刑される

よ、あなたは私を知っている。神よ、私はあなたのものである」と結びます。私は、冷静な心で、内面を真摯に見つめる彼に心が魅かれると共に、そのように、ただ自分を深く掘り下げ続けるだけでは意味がない事を教えられ、肩の荷が降りた気持ちでした。確かに、私の中には「惨めさ」しか見だせません。しかし、この私を、神がどのように思われるのか。私の私に対する思いではなく、神の私に対する思いが大切なのです。彼は誠実な歩みを続けて、最後には処刑されま

すが、死に臨み「これが私の最後です。しかしまた私の始まりです」と語ります。ここには絶望ではなく、希望があります。それは、あの詩の最後に、彼が「神よ、私はあなたのものであり、自分を白くする」と告白する通り、自分はあく



Bramantino, Crocifissione (Milano, Pinacoteca di Brera)



までも神のものであるという、神への強い信頼から来るものに違いありません。このように神を深く信頼する心は、あの厳しい状況にもかかわらず、最後まで神に従おうとする試練を通して、神から彼に与えられた恵みなのかもしれません。遅かれ早かれ、人は誰でも死と向き合う時が来ます。ボンヘッファーが身をもって示す通り、神に対して誠実に歩む人は、確信を与えられ、最後まで希望の中を歩むことが出来るのでしよう。翻って自分を顧みると、私の歩みは神と人に対して正しく向き合う厳しさに欠けています。生ぬるいだけでなく歪んでいきます。心の闇は、やはり抱え続けています。ですから私は、自分の死に臨み、彼のような確信に立ち、澄んだ瞳で神と向き合う事が出来るのかと自分に問えば、ただ沈黙をして、下を向くだけです。

付けられた、あの犯罪人が頭に浮びます。彼にもそれなりの事情があり、あのようになんか、最期を迎えることになったのでしょうか。外側はともかくとして、歩みの中身を神から見たら、私と彼の歩みには違いがあるとは思えません。あの詩の言葉を借りれば、私は間違いない「偽善者」と「哀れな弱虫」の両方を併せ持つ人間に見えるのでしよう。結局のところ、私は彼と同じなのです。彼はイエスに「わたしを思い出してください」(ルカ23:42)と憐れみを乞います。私も、神に対して不誠実な歩みしか持たない、ありのままの自分を差し出して「このままの私を、どうぞあなたの御心に留めてください」と願うだけ。彼はイエスから「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(ルカ23:43)と約束の言葉を頂きました。私も、御国へ向かう人々の、最後の列の一人として「お前は私のもの」と神に呼び出されるなら、これに優る喜びはありません。

このように、確かに私にも神から慈しみと憐れみが与えられることに希望を抱き、これから先、頭を挙げ、1日1日を歩むことが出来れば幸いです。

イエスと共に十字架に

第22回  
春の全国ティーンズキャンプ

第22回 春の全国ティーンズキャンプ  
...おかえり、いっぴゃらっしやい...

2015年3月26日(木)~28日(土)  
千葉県少年自然の家

詳しくは→<http://tngteens.hamazo.tv/>

好評発売中！  
新訳「エンキリディオン小教理問答」

マルティン・ルター著 ルター研究所訳  
B6版115頁  
教会内限定価格900円(税込)  
発売元：トリオン  
●注文方法などは各教会宛に配布済の案内を参照ください。

「神の前で」とは、「神の判断基準に立てば」という意味であり、「人々の前で」とは、「社会的判断基準に立てば」という意味である。われわれが通常「善い、悪い」というとき、人間の倫理的基準で判断をする。この基準に立てば、時には悪いことをしてしまうことがあっても、通常は、善いことを考え、善いことを行っている。

ルターは、そのような判断基準は一旦棚上げし、すべてを「神の判断によれば」という視点で考え、発言する。われわれは、「神の前で」という判断領域と「人々の前で」という判断領域を無意識に重ねてしまっている。ここが分かれ目である。

しかし、われわれは善いことも考え、善いことも行っている。そうでなければ、社会は成り立たないからである。だから、ルターの主張には同意できないと考えるのが普通である。ルターの発言を理解する際に重要なのは、「神の前で」と「人々の前で」というルターの厳格な区別である。



議長室から

お正月といえは初夢です。富士山や鷹、あるいはなすの夢を1月2日に見るとその年は縁起が良いとされていますが、巷での新年の話題の一つでしょう。

すべての人の自由と平等を訴え、公民権運動の指導者となったマーティン・ルーサー・キング牧師が、ワシントン大行進

### ルーテル昆布で 結びれて

北海道特別教区女性の会 会長 近藤雅子

「ルーテル昆布は北海道特別教区において、1995年より20年程続いている活動です。

私たち北海道特別教区の女性の会は他の教区に比べて圧倒的に規模の小さな群れです。会費のみでは活動費もさることながら、広い教区内で集う交通費補助を工面するのは厳しい状態でした。何とか自分た



ちで活動費を生み出すことが出来ないかと思案し、会員のご紹介で北海道の特産の昆布を生かす道が開かれました。

「ルーテル昆布」で取り組んでいる「長長切昆布」(ながながきりこんぶ)は、もともと7m程の長さがあります。当初はそれを乾燥して材木のよ

うに重ねた形で届いていたので、キッチン缺で切ってパックするなど、慣れぬ仕事に難儀していました。ある時から、苦労を肩兼ねた男性教員がチェーンソーで切ってくださいるようになって随分効率良くなり

ました。その後、生産者がパックに入れるばかりの長さに切り揃えて送ってくださいるようになって、延べ50名程の方が奉仕されます。札幌圏の教会の兄弟姉妹が集って賑やかに会話を集みながら手を動かし、昼食タイムも良き分ち合い良き交わりの時となっています。

このように生産者のかたのご理解はもとより、ご購入くださる全国の多くの皆様のお支えがあったこの活動が続けられてきたことを感謝しています。遠いブラジルのサンパウロ教会に献品してバザーに役立てて頂いていますが、昆布が届くたびにブラジルでは手に入りにくいこの食材に望郷の思いを巡らされていると聞きました。

北海道の大地からの産物がまさに「結び昆布」となっており、大切に感じます。神様の大きな御業に改めて感謝しつつ、この活動を続けていきたいと願っております。

の演説で「わたしには夢がある」と語ったことは有名です。多くの人の共感する夢は目標となり、行動する力を与えることになりました。

キリスト者にとつての夢とは何でしょうか。聖書にはたくさん夢が記されています。旧約聖書のヤコブは先端が天に達する階段の夢を見ました。ヤコブの息子のヨセフもたくさん夢を見ました。

## 神さまの夢、そして私たちの夢

総会議長 立山忠浩

書いたヨセフにとつては歓迎したくない夢だったので。マリアを妻として迎え入れるようにとの命令でした。

私たちが「夢」という言葉から連想することは、希望であり、願望である

「夢」ではなく「神さまの夢」なのです。

新年を迎えました。私自身の夢を語り、また教会や諸施設、諸学校の夢を語ることがあるでしょう。キング牧師の夢と同じように、互いが共感し

目標となる夢、行動する力となる夢を持つことはとても重要です。でも、それらの夢の前に、「神さまの夢」があることを忘れてはいけません。神さまの夢はしばしば戸惑いを覚え、歓迎したくないものであるかもしれない。しかし、そのような不安や不信の霧はいつか必ず晴れていくのです。

神さまの夢、神さまの心を、私たちはこの1年間も聖書の言葉から礼拝の言葉から受け取って行きましょう。皆さまの新しい年の上に、神さまの祝福をお祈りいたします。

### 現在(いま)、 宣教する教会として 東海教区 第40回信徒大会報告

山田英幸 栄光教会

昨年、11月3日、隔年開催になって初めての信徒大会が栄光教会(藤枝礼拝堂)で行なわれました。実行担当は駿遠地区(新霊山掛川・菊川・栄光教会)です。目的のひとつは、教区内の教師と信徒が出会いと再会を喜び、共に学びかつ親交を深めることです。参加者が楽しく、過ごしていただくよう、スタッフと設備を整えられた会場での開催としました。

当日は秋晴れに恵まれ、東は沼津、西は大垣から20教会より、こども11名を含めて155名が参加しました。後藤由起牧師(新霊山教会)の説教による開会礼拝に続き、藤敷庸一牧師(白浜バプテスト基督教会)、白浜レスキューネットワーク理事長)による講演「キリスト者の良心を問う」がなされ、牧師への決意、チームブレイの大切さ、惜しまぬ行動など、多岐に渡りパワフルかつソフトに話され、頷くことの絶えないひと時でした。

昼食時には屋外で物品販売が行われ、各ブースも盛況でした。午後は多くのチャリティ活動に参加されている上野由恵さん(フルート)と圓井晶子さん(ピアノ)によるコンサートです。フルートの名曲や抒情歌演奏を始め、賛美歌演奏においては2曲を全員で合唱し、会場が一体になった素晴らしい会でした。

次いで地区宣教委員会の活動報告に移りました。地区(駿遠、尾張岐阜、東静、三遠)ごとに活動状況を報告し、課題や悩み、喜び、希望などを語り、教区内での共有化を図られました。

三浦知夫牧師(教区長)の説教による開会礼拝の初めに子どもたちによるトーンチャイム演奏と賛美(振付あり)があり、子どもプログラム(ピアノ)によるコンサートです。参加者は再会を願いつつ帰路に着きました。

次回は2016年、担当は三遠地区です。尚、開会礼拝の席上献金はルーテル学院大学・神学校後援会とデンマーク牧場福祉村に捧げました。大会のために多くの働き人を備えてくださり、絶えず導きと祝福を与えてくださった主に感謝します。



# 礼拝式文の改訂



派遣

式文委員 安井厚生

現行の式文は、30年ほどの時間をかけて「私たちの」礼拝として浸透しました。式文改訂作業は歴史を踏まえつつ、今できることを反映すること、将来の礼拝を作るものであるように思っています。その作業で感じていることは、礼拝の基本的構造は、過去からほとんど変化が無く、ほぼ完成しているということなのです。ですので改訂作業の先に、これまでのものと全く異なるものができるかということはありません。

そしてまた、招かれて集い、み言葉に耳を傾け、聖餐を分かち合い、派遣されるという礼拝の構造は、演劇や音楽、キャンプやイベントなどの構造とも似ています。礼拝の構造がそれ以外の諸プログラムの基礎になっているのです。それを起承転結と表現してもよいでしょう。

また、それをなす大きな目的であります。つまり、礼拝において、その内容である福音の説教と聖礼典によって神の恵みを受け取ることに、派遣されるという心が、その目的となることなのです。「礼拝とは派遣されるためにある」と言っても過言ではありません。世界における典刷新の動きの中で、ルーター派もまた礼拝の結びの部分に、古くて新しい強調を与えました。それが「閉会から派遣へ」の変化でした。私たちは派遣されるために礼拝に集い、福音による養いを受けることを念頭において、派遣の部を過こします。

青式文との相違点について触れます。「マニク・ディミトウス」は、他の新約聖書における賛歌と共に、夕の祈りの際に親しまれたものの一つです。これを16世紀にスウェーデンの教会が聖餐への感謝として用い、広がりしました。その伝統に回帰し、聖餐との関係をより豊かに味わうために、礼拝における順番には変化はありませんが、派遣から聖餐へと位置を変える形を取っています。「奉獻は、その言葉が示すように、神への献げのものです。同時に神の恵みによって生かされている私自身を献げることでもあります。それは私たちが神に犠牲を献げる行為ではありません。神は、み子イエスをただ一度だけ十字架において犠牲としてくださったことで、救いを完成しているのであり、私たちがその犠牲など必要とされないのです。ゆえに私たちは犠牲ではなく、みこほに与った恵みを分かち合うために献げます。これはサクラメントを十分に理解するように民衆に教えたので、人々は外的な食物や資産も持ち込み、必要とする者たちに分け与えた。ミサにはコレクタということが残っており、共同に集めるという意味である。貧しい人々に与えるために、共同金を集めるのと同じ。」「キリストの聖なる真のからだの尊いサクラメントについて、及び兄弟団についての説教」というルーターの言葉とも重なります。そのため、困難の中にある人々と分かち合うための奉獻であることを「派遣の祈り」の中心に据えました。

祝福に続き、「派遣の言葉」を言い交わします。主に隣人に伝え、分かち合い、伝える決意を神に助けていただくことを願い、私たちは礼拝から押し出されるのです。

## 東地域教師会 退修会報告

東地域教師会長 松岡俊一郎

11月10日・11日、東地域教師会退修会が桜美林大学多摩アカデミーヒルズを会場に、教師会員40名中29名の出席で開かれた。「ビューマン・セクシュアリティと教会をテーマに、ジェームズ・サック師の講演が行われた。サック師は、2001年から2009年にかけて行われたアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)の研究とその報告、そして実際の教会の状況について話された。

教会は、「教会には同性愛者はいない。いても少数と主張していたが、それ自体が、同性愛者が教会に居つらい状況を生み出していたし、同性愛者が自分の性自認を隠さざるを得ないような状況を作っていたとの反省から出発した。時間をかけた慎重な研究の結果、性の考え方は時代によって変化していること、また、時代と共に結婚の理解、晩婚化、離婚、混血家族、性交渉の低年齢化、同棲することなどについての価値観が変化し、それが受け入れられているとされた。聖書研究も真剣に行われ、その結果、同性愛者をキリストに結ばれている隣人とし、異性愛者も同性愛者も共に罪人であり、キリストは罪人を受け入れられる、とした。ELCA総会は、同性愛者を受け入れる(同棲愛者の牧師の按手を認めることを含め)決議案を、ちょうど3分の2の得票によって可決した。これに反対する信徒や教会の多くがELCAを離れたことも事実である。

カトリック教会 日本聖公会 日本福音ルーテル教会

11月30日、日本福音ルーテル教会とカトリック教会、日本聖公会の3つの教会が共に集い、東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂を会場に、初めての合同礼拝が行われました。礼拝に先駆けてシンポジウムが行われ、3教会より「エキュメニズム教令」50年の実り」とのテーマで講演が

必要性、イマゴ・グレイ(神の似姿や命について考える必要性、HIV/エイズの事柄などが提起された。その結果、これを継続的に学ぶことが確認された。

## 合同礼拝報告

## Book Review



『祈りの輝き』 長谷川(間瀬)恵美 (藤が丘教会)

主にあつて平安

この度、皆様の祈りに支えられて『祈りの輝き』(Frakturan)の第2版が増刷されました。機関紙「るつて」で再度ご紹介させていただく機会を与えられ感謝です。

『祈りの輪』を使って祈ると、という試みはスウェーデン、という試みはスウェー

デン・ルーテル教会の監督マーティン・ルネボー(1930-)によって、今から20年ほど前に発案され、世界各国の教会に取り入れられました。18個の珠から出来た輪には、その一粒一粒に祈りが託されて、珠を練りながら祈ります。その補助として『祈りの輝き』を使うのですが、私はこの本をスウェーデンの留学生生活の終わりに、ドミニコ会の修道女カトリン・アーメル博士から贈られました。彼女は、若い頃、日本の禅道場で修行された方でもあ

ります。私はこの本との出会いを、神さまからいただいた尊い出会いだと感謝しています。

そして、2014年、第2版が完成し、ルーテル学院大学の講座「五感のクリスチャン・スピリチュアリティ」のテキストとしても使用されることになりました。こうして、少しずつ日本にも祈りの大切さ、五感(目・耳・鼻・口・そして魂)で祈ることの大切さが浸透していることをとても嬉しく思います。心からの感謝と祈りをこめて。

『祈りの輪』を使って祈ると、という試みはスウェー



入手希望の方は、Eメール emhase@brin.ac.jp (長谷川(間瀬)恵美まで) お知らせください。



# 宗教改革500年 記念事業 シンボルマーク決定。



応募総数108作品  
宗教改革500年記念事業シンボルマークのために、海外からの応募も合わせ、全国各地から作品が寄せられました。教会関係者のお名前もありましたが、それ以外にも多くの方が関心を持ち、500年を記念する歴史的な歩みへとつながってくださいました。感謝致します。

このマークを用いていくことが決定しました。優秀賞に選ばれた作品は、二人の方の合作で制作されました。作者は大阪府に在住の坂本信也さんと南端久也さんです。企業ブランドや商品の企画やデザインにコンビで携わって来られたそうです。お二人には表彰状と共に賞金500ユーロが贈られます。

【十字架】  
十字架はキリストの苦しみのあるしるし。しかし、それは、神の愛と恵みのしるし。

【手】  
神の恵みを受け取った手。それは、感謝と平和を求め、心を宿し、導かれて祈りの姿とされる。

【色】  
5つの色は、全世界。神の恵みと福音が全世界へと伝えられた歴史を証しする。

【手】  
神の恵みを受け取った手。それは、感謝と平和を求め、心を宿し、導かれて祈りの姿とされる。

24回全国総会で財務方案の一つとして、「5年間の貸付凍結」が決議されたが、2015年から貸付再開を決議した。一方で、各教区に対する「教区土地建物準備金の繰出しの中断は、なお5年の延長を決議した。

今回、老朽化対策及び耐震工事を実施すべく、土地建物回転資金の申請を行ったのは2教会で、いずれも承認された。

来る2017年に向けての宗教改革500年記念事業については、概要計画に沿って「推奨4冊」のうち、『エンキリディオン小教理問答』が10月31日に出版される等、ほぼ予定通りに準備作業が進捗している現状を出席者一同で確認した。何より肝心なのは、各教会・学校・幼保・施設などでの活用であり、記念事業の積極的な展開を図るための意見交換がなされた。また、本記念事業のシンボルマーク作成を進め、実施した公募は大きな反響を呼び、応募108点にのぼった。これらを選考委員会で絞り込み、本常議員会で記念事業シンボルマークの採用作品が決定した。

なお常議員会の詳細は、教会宛に送付される議事録をお読みください。

## 第26回総会期 第2回常議員会報告 事務局長 白川道生

第26回総会期の第2回常議員会が、11月4日から6日にかけて、ルーテル市ヶ谷センターにて開催された。

▼諸活動、委員会報告  
今回、報告をもとに協議がなされた主な事項は、世界宣教と式文改訂に関するものであった。

世界宣教の関係では、現在まで宣教師を派遣し

てきたブラジル伝道に関して、既定の宣教師派遣の満了と現地教会との協議の必要性を確認した。加えて、現地教会及び派遣宣教師との、これからの在り方を含む調整が執行部に委ねられた。

また、常議員会より付託した式文改訂の作業に関しては、本年5月の全国総会での中間報告をめぐり諸意見をふまえ、今後、常議員会と式文委員会が協力して、全国・各教区において、説明の機会を実施してゆくことと取り組みを定めた。

▼審議事項  
審議事項では、まず、3名のJ3(任期は3年)宣教師を九州学院及び九州

審議事項では、まず、3名のJ3(任期は3年)宣教師を九州学院及び九州